

とよなかの市民活動 共同デスク

2015年3月発行 第15号
とよなかの市民活動・共同デスク実行委員会

(社福) 豊中市社会福祉協議会
(公財) とよなか国際交流協会
(一財) とよなか男女共同参画推進財団
(公財) 豊中市スポーツ振興事業団
(特活) とよなか市民環境会議アジェンダ21
とよなか市民公益活動協議体 らっぴ
(特活) とよなか市民活動ネットきずな(事務局)
TEL&FAX: 06-6848-8989

(公財)とよなか国際交流協会

「チームとよなか」の一員として、 緩やかなネットワークづくりを模索



昨年度、とよなか国際交流協会&センターが20周年を迎え、これまでここ豊中の地でたくさんのつながりを創りながら、外国人支援と多文化共生の課題に関わってきたことが改めて確認されました。また、その中で、行政・市民団体・ボランティアなど様々な分野で社会的課題に取り組みながら踏ん張っている人たちとつながってきたことも実感しました。この20年の振り返りから、今年度は今まで以上に地域にこだわり、秋にはすてっぴ、らっぴとの合同イベントの開催や、社協のパンフレットの多言語化など、地域での絆を意識して事業を展開しました。この3月13日には策定から1周年を迎える豊中市の「多文化共生指針」についてのフォーラムを地域の市民団体と共催で開催しますが、今後も「チームとよなか」の一員として、あらゆる国際交流団体と連携を深め、緩やかなネットワークづくりを模索して逝きたいと考えています。

(公財)豊中市スポーツ振興事業団 「スポーツを通じた連携」



平成27年度は、屋内体育施設の現指定管理期間の集大成として、これまで培ったノウハウや経験を生かし更なるサービス向上に努め、次期指定管理獲得に向け取り組んでいます。

また、新しい取り組みとしてとよなか国際交流協会と連携した「スポーツを通じた異文化交流」、高齢者・障がい者に向けての「サポートが必要な人への運動支援」、その他、小学校や地域に向いての運動イベントなども計画しています。そして、とよすぽ「とよピヨ体操」を通じ、たくさんの人々に楽しんで体を動かしてもらえる機会をつくっていききたいと思います。



地域の子もたちと一緒にサッカーを楽しむ「とよピヨ」(マルチグラウンドにて)



(一財)とよなか男女共同参画推進財団

市民、関連団体、行政をつなぎ女性の視点から地域防災を考えます

市民と行政をつなぐ中間支援組織としての事業の一例として「とよなか女性防災プロジェクト」があげられます。2011年から、すてっぴを中心に行政、市民、民間企業が一同に集まり「女性と防災」について学習会を重ね、それぞれの視点から執筆した冊子「とよなか女性防災ノート」を発行。また2014年度には「女性と防災を考える会」委員のみなさんとともに、市長へ「女性と防災に関する提言書」を提出しました(写真)。提言は、地域で市民活動や自主防災に取り組んでいる「NPO 法人とよなか市民活動ネットきずな」「公益財団法人とよなか国際交流協会」「豊中女性防火クラブ連絡協議会」をはじめとした12団体を代表する12人の女性委員で作成。女性の意見を「豊中市地域防災計画の改定」という意思決定の場へ反映していく第一歩となるものです。4月23日(木)14~16時には「ともに地域防災を語りあう~女性や地域福祉の視点から」をテーマに豊中市市民活動情報サロンにて、「とよなか女性防災ノートPART II」の紹介や地域防災について語り合う会を開催します。



とよなか市民公益活動協議体・らっぴ 新たな共同デスクの取り組みへ



提案公募型委託制度により「らっぴ」が豊中市と協働で運営する市民活動情報サロンは、今年の4月で3年目を迎えます。振り返れば1年目は交流スペースの拡張やシェアオフィス機能の拡充に向けて、豊中市コミュニティ政策室と市民活動情報サロンのリニューアルに取り組み、2年目は広がった交流スペースをフル活用しようと、さまざまな団体や施設との協働で『市民活動交流サロン』をほぼ毎月にわたり開催しました。9月には市民活動交流サロンをとおして横つながりができた、とよなか国際交流協会、とよなか男女共同参画推進財団と『こくりゅう・すてっぴ・サロンでジャンプ!』(写真)を開催し、それぞれの施設で活動する団体同士の交流やお互いの施設を知ってもらうきっかけづくりとして多くの市民に参加していただきました。3年目の今年は共同デスクでつながったすべての中間支援団体と一緒に秋開催予定のイベントを企画中です。新たな共同デスクの取り組みにご期待ください。



(社福)豊中市社会福祉協議会

中間支援組織の連携について

~第3期地域福祉活動計画(Linkプランとよなか3)~



地域福祉活動計画は豊中市社会福祉協議会の5か年計画で、第3期豊中市地域福祉計画と基本理念「誰もが互いに尊重し合い、安心して健康に暮らすことのできる福祉コミュニティの実現」を共有し、住民や民間の総合的な行動計画としてつくられています。その基本理念のもとに地域福祉活動計画の重点プロジェクト(リンクプラン3)施策の展開の1つとして、プラットフォームづくり(地域課題の共有化)が示され、中間支援組織の懇談会が記載されています。共同デスクの取り組みは、まさにそれにあたり、各組織同士がより円滑につながり、新たな取り組みが進んでいます。社協の関係では市民情報サロンのマンスリーサロンへの参加、外国人のための地域福祉ガイドの作成、こくりゅう・すてっぴ・サロンでジャンプ!への老人介護者(家族)の会の参加など徐々に連携が広まり、今後も大切なつながりとなるでしょう。



(特活)とよなか市民環境会議アジェンダ21

ESD10年の冊子から、つながりを考えてみると...

国連「ESD(持続可能な開発のための教育)の10年」が2014年で最終年を迎えました。豊中でも2004年にESDの取り組みを開始してから10年が経過したことを機に、豊中市環境政策室が予算を確保し、冊子「未来につなぐみんなのチャレンジ~豊中のESD10年のまとめ~」を2015年3月に発行。発行に際しては、すてっぴ・国流・きずなをはじめとするESDとよなか連絡会議の協力を得ながら、過去に関わった方に原稿を寄せていただき、当団体で集約・編集しました。この冊子の中で榎井縁さん(国流の元事務局長)は、ESDを始めるにあたり、アジェンダの元事務局長の井上和彦さんと会い、想いを共有できたと書かれています。それまで関わりのなかった両団体は、ESDをきっかけにつながりを持ち、その後、市内のいろんな団体に関わってきました。また、市民活動ガイドブックの作成→共同デスクの実施も含め、現在ではさまざまな場面で各団体のつながりができました。こうした過去の経過や各団体のつながりの軌跡が含まれた冊子です。ぜひ多くの方にご覧いただきたいです。



「(特活)とよなか市民活動ネットきずな」

これからの共同デスクに期待

「共同デスク」のメンバーとして活動してきた

「(特活)とよなか市民活動ネットきずな」は、3月25日の総会で正式決定を経て、今年度いっぱい解散の予定です。

2011年3月に発行した『2011とよなかの市民活動ガイドブック』を、5つの市民活動中間支援団体が協働で作成したのが「共同デスク」のきっかけでした。現在は7団体に増え、毎月、各団体の担当者が集い、壁新聞の企画や情報交換、イベント等の協働の相談などを、和気藹々の雰囲気の中で語り合ってきました。「きずな」は解散しますが、会員それぞれが「個」にもどって、力まず、ゆったりと、楽しい「これから」を模索していきます。

「共同デスク」が、これからもいろんな団体とネットワークを広げ、「つながり」、「力と心を合わせ」て、豊中の市民公益活動を豊かにしていってくださることを期待しています。

※ この壁新聞は、7つの中間支援団体のとりくみを、分野をこえて情報発信しようと考えた取り組みです。